



『まえだとし女 六百五十句』



まえだとし女

秋の日や黄のおしろいに朱の絞り
古本に十七年と煤払
硯といふ硯洗はれ年の内

つり針に注意と曹以に小六月
小春空れもんそのまま枝にあり
焼秋刀魚引返し見る人若く
直売の冬菜はかくも冬菜にて
偏食も永きに亘り冬至粥
に^あん^るじん^人をかじりたき日のあるらしく
人参を拍子木状に切る疾さ
コノハナノサクヤビメとや七五三
七五三柴又駅に袴の子
大型の菊のツリーや七五三
鱸跳ね十二月へと入りにけり

『まえだとし女 六百五十句』

